

学位論文審査結果の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻病態修復医学講座 乳腺外科学	氏 名	野原 有起
審 査 委 員	主 査 伊佐地 秀司 副 査 佐久間 肇 副 査 白石 泰三		

(学位論文審査結果の要旨)

Cosmetic Evaluation Methods Adapted to Asian Patients after Breast Conserving Surgery and Examination of the Necessarily Elements for Cosmetic Evaluation

【主論文審査結果の要旨】

著者らは論文において下記の内容を述べている。

【背景】

乳房温存療法後の整容性評価法は様々な方法が報告されていが、一定の基準は無い。さらに日本人を含むアジア人は乳房が小さく、乳房下溝線もはっきりしておらず、瘢痕も目立ちやすい。これらの違いが整容性評価に影響すると考えられる。今回、著者らは主観的評価法として広く用いられている Harris らの方法(以下 Harris)及び日本で作成された日本乳癌学会班研究沢井班による術後乳房整容性評価(以下沢井班)と客観的評価法として欧州で利用されている the Breast Cancer Conservation Treatment cosmetic results(以下 BCCT.core)を日本人症例に適応し、それぞれの違いを検討してた上で、日本人に適した「理想的な整容性評価法」の作成に必要な要素の検討を行った。

【方法】

Primary evaluation として、日本人 190 例の正面写真を用い、主観的評価法の Harris 及び沢井班と客観的評価法として BCCT.core を使用し、筆頭著者 1 人で評価を行い、方法間の違いを一致度の指標である kappa(κ) (及び重み付き κ) を用いて検討した。次に Observer assessment として、「理想的な整容性評価法」の作成に必要な要素の検討を行った。前述の 190 例から Excellent/Good/Fair/Poor が均等になるよう 100 例を選出し、6 人の評価者で Harris と改変した沢井班(乳房の硬さを除き 7 項目につき 1〜5 点を配点)を用いて評価を行った。6 人の評価者の評価結果をレビューしてコンセンサスを作成した。その上でコンセンサスと改変した沢井班の 7 項目との相関関係を Spearman 順位相関係数で検討した。

【結果】

Primary evaluation で、3つの評価法の一致度は κ (重み付き κ) で BCCT.core 対 Harris が 0.096 (0.025)、BCCT.core 対沢井班が 0.128 (0.013)、Harris 対沢井班が 0.802 (0.796) となった。この結果、BCCT.core と他2つの主観的評価法との乖離が明らかになり、日本人に適した整容性評価法の必要性が示唆された。

Observer assessment で、6人の評価者により作成されたコンセンサスは、Excellent:27例、Good:27例、Fair:26例、Poor:20例となった。コンセンサスと改変した沢井班7項目との相関係数は、乳房の形 (0.909) > 乳房の大きさ (0.791) > 乳房最下垂点位置 (0.758) > 乳頭位置 (0.690) > 乳頭乳輪の大きさ/形 (0.647) > 乳頭乳輪の色調 (0.542) > 瘢痕 (0.345) となった。乳房の形態に関連した項目である、乳房の形、乳房の大きさ、乳房最下垂点位置は、整容性評価の重要な要素であるが、瘢痕はあまり関連していないことが明らかになった。

今回、欧米人を元に開発された BCCT.core は、日本人に適応した場合、主観的評価と乖離を生じることが示された。さらに日本人に適した整容性評価法作成に必要な要素の順位付けを明らかにした論文であり、学術上極めて有益であり、学位論文として価値あるものと認めた。

【掲載雑誌名及び著者名】

掲載雑誌名

Journal of Breast Cancer
Received: June 13, 2014
Accepted: December 9, 2014

著者名

Yuki Nohara, Noriko Hanamura, Hisamitsu Zaha, Hiroko Kimura, Yumi Kashikura,
Takashi Nakamura, Aya Noro, Nao Imai, Mai Shibusawa, Tomoko Ogawa

